



北海道大学
日本語
スタンダードズ
2019年度版

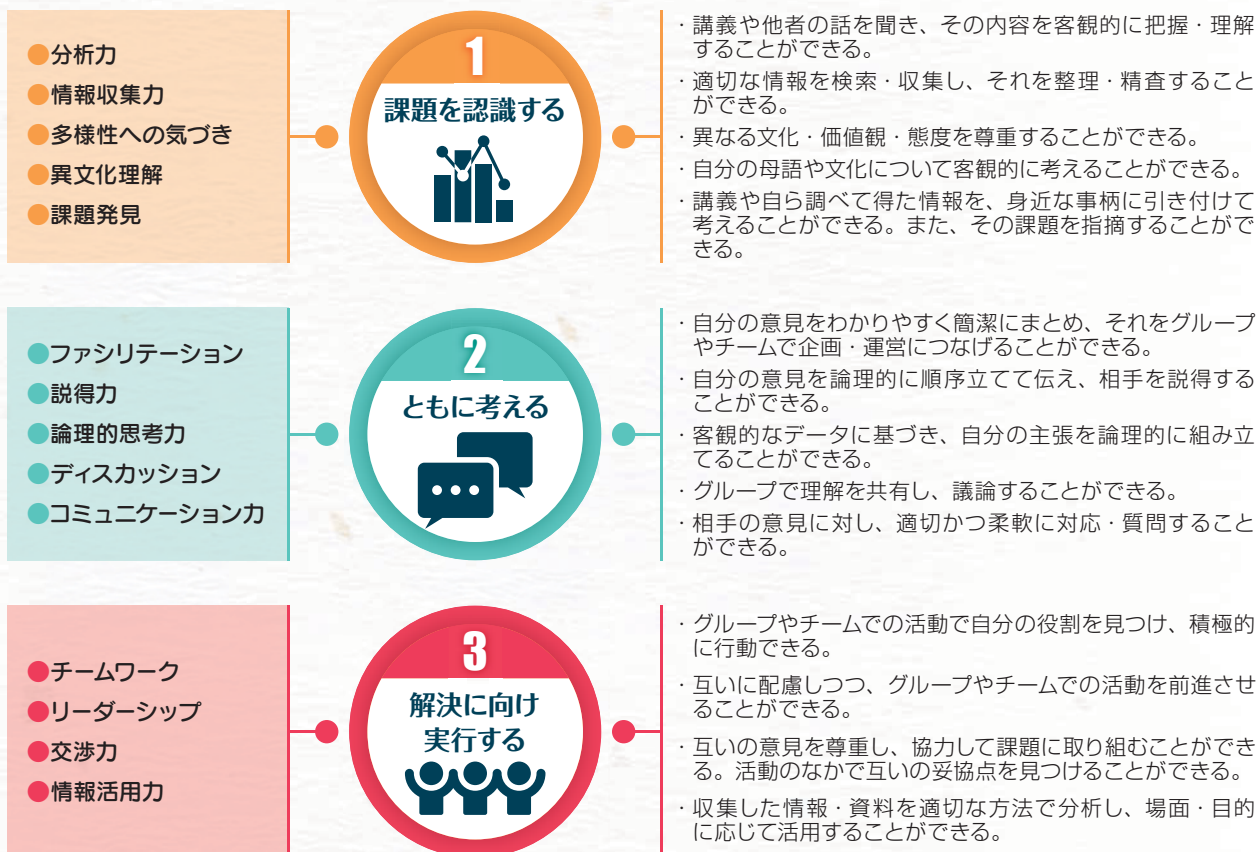


北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

〈北海道大学日本語スタンダードとは〉

本機関は、留学生と日本人学生がともに学び、様々な社会的問題の解決に向けた新たな手段、文化を継続的かつ具体的に生み出していけるような、新しい社会構築のための即戦力となる人材養成を目指している。そのために、平成23年度より外国人留学生と日本人学生が協働して学ぶ交流授業「多文化交流科目」を創設し、本機関で提供する日本語コースの中核に据えている。「多文化交流科目」で育成を目指すスキルは以下の通り、大きく3つに分けることができる。

多文化交流科目で育成を目指すスキル



それに伴い、従来の「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能に、「漢字語彙」と「文法」を加えた6科目でなされていた日本語コースのカリキュラムを改編し、留学生と日本人学生が協働して行う活動を支える「ことば」「コミュニケーション」としての日本語教育を提供している。本スタンダード(表1～2)はそのために必要な日本語とは何か、具体的にどんなことをするかを「レベル別」および「モード別」に記述したものである。

〈レベル設定〉

レベルとしては、従来の日本語コースのレベルに合わせて上級1レベル、中級3レベル、初級4レベルの8レベルを設定している。上級は、「多文化交流科目」で必要とされる各スキルの弱い部分を、学習者が自ら選択してトレーニングできるようにトピックまたはスキル別に設定されている。初級レベルで目指すのはいわゆる市販されている初級日本語教材の修了レベルである。また、「多文化交流科目」は、当初、上級日本語レベルのみを開設していたが、最終的には学習者がレベルを問わず自由に履修できる方向性を考え、現在は中級レベルの「多文化交流科目」も多数開講しており、将来的に初級レベルの科目開講も目標としている。



〈モード設定〉



コミュニケーション能力の記述は、21世紀のグローバル社会を生き抜く資質・能力を獲得し、言語を使ってつながりを作り、他者と協働して社会を創造していくことを言語教育の目標としている「外国語学習のめやす」(<http://www.tjf.or.jp/meyasu/>)を参考に、以下の「やりとり」「理解」「表現」の3つのモードで示している。

① やりとりモード 話す・聞く (日常会話、討論、電話など) 書く・読む (メール交換など)	② 理解モード 聞く (テレビ、ラジオ、放送、案内、講義など) 読む (広告、新聞、小説、論文など)	③ 表現モード 話す (プレゼンテーション、スピーチなど) 書く (レポート、ポスターなど)
---	---	---

〈レベル別言語行動目標〉



レベル別に言語行動目標を示したものが表1である。上記「多文化交流科目」で行う活動に必要な言語行動を「やりとり」「理解」「表現」のモード別に抽出して示し、それらを支える日本語を上級から初級までレベル別に示したものである。

〈北大日本語スタンダードモード別一覧表〉



表2-1～2-3がそれぞれ「やりとり」「理解」「表現」のモード別一覧表である。これは、表1の中上級4レベルの「言語行動目標」を達成するための「スキル」と、それに有効な「授業活動」を記述したものである。表中、レベルの分類基準と記載基準は以下の通りであり、「記載基準」の**1～3**は、表2-1～2-3の「スキル」「授業活動」欄の**1～3**にそれぞれ対応している。

モード	レベルの分類基準	記載基準
やりとり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な話題から抽象的な話題へ ・ 大まかな説明から細かい説明へ ・ 命題重視から待遇重視へ ・ 短い表出・理解から長い表出・理解へ ・ 既習内容の活用から応用へ 	<ul style="list-style-type: none"> 1 内容の幅と深さ 2 働きかけ 3 反応
理 解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短いものから長いものへ ・ 事実説明から幅広く専門的なジャンルへ ・ 単独のストラテジーから複雑かつ複数のストラテジー使用へ ・ 大まかな理解から速く正確な理解へ ・ 既習内容の確実な理解から応用へ 	<ul style="list-style-type: none"> 1 対象となる内容 2 ストラテジー 3 解釈レベルの程度
表 現	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートを書くためのパーツから段落のある論理的な構造のある文章へ ・ 正確でより複雑な表現へ ・ データや引用を用いたより客観的で論理的なものへ ・ 短いものから長いプレゼンへ 	<ul style="list-style-type: none"> 1 使われる表現 2 組み立て能力 3 プレゼン技法

なお、初級は目的、対象、期間等の異なるコースが複数並行して行われていることから、モード別にせず、従来の「文法」「口頭表現」「漢字語彙」の3科目で表1の言語行動目標に基づいて行っている。

3モード別に掲載されている「言語行動目標」「スキル」「授業活動」が意味するものは、以下の通りである。

「言語行動目標」：「多文化交流科目」の目的を達成するために、各レベルでできるようになることを目指すもの

「スキル」：言語行動目標を可能にするために、各レベルで身に付けることが必要となる具体的な言語行動

「授業活動」：各スキルを身につける有効な方法として、実際に授業の中で行った活動の具体例

表1 レベル別言語行動目標

レベル	やりとり	理解	表現
多文化交流科目	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を論理的に伝え、相手を説得することができる。 小グループで理解を共有し、各自の意見を出し合い、まとめることができる。 ファシリテーターとしての役割を果たすことができる。 専門家の解説に対して適切に反応、質問することができる。 目的と場面にあわせて適切な文面でメールを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学術的な内容を詳細に理解することができる。 内容を客観的に理解し、身近な事柄に引きつけて考えることができる。 目的に応じて必要な情報を適切な方法で検索・収集することができる。 得られた情報を適切に整理、精査し、固有のテーマや課題を見出すことができる。 収集した情報・データを適切な方法で集計・分析し、目的に応じて活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解した内容と自分の意見を、わかりやすく簡略にまとめて発表することができる。 調べた内容と自分の意見を、説得力ある文章にまとめることができる。 見学した内容について道筋を立てて論理的に文章化することができる。 目的に合った調査方法を検討し、実施することができる。 実際の活動の計画を組み立て、明示化した上で実践することができる。
上級	<p>相容れない話題や場面において、平等に意見を共有しつつ、もっとも効果的な方法で議論し合って相互理解を導くことで、共通の目的の達成に寄与することができる。</p>	<p>目的に応じて情報を集め、高度な内容を詳細に理解し、分析、活用することができる。</p>	<p>TPOを配慮した適切な語句を選択し、説得力のある表現技法を用いて効果的に記述・表現できる。</p>
中級3	<p>自分が言いたいことを様々な表現を効果的に使って流暢かつ自然に表現することができ、相手に対して柔軟に効果的に対応することができる。</p>	<p>トピックに関係なく、長くて複雑な内容を詳細に理解することができる。</p>	<p>複雑な話題について、論理的に明瞭かつ詳細に記述・表現することができる。</p>
中級2	<p>より幅広い話題について、正確に言葉を使うことができ、その場にふさわしい丁寧さで、お互いにストレスを感じることなく、対話や関係を維持しながら自然にやりとりができる。</p>	<p>適切なリソースを使い、様々な目的や内容の種類に合わせて読み方・聞き方を変えながら、ポイントを理解することができる。</p>	<p>様々な話題について、関連する情報を活用しながら、明確かつ詳細に記述・表現することができる。</p>
中級1	<p>日常的な話題だけでなく、非日常的で抽象的な話題についても、自分の意見を表明したり、情報を交換したり、話し合いをすることができる。</p>	<p>簡潔な事実関係の内容を、十分に理解することができる。</p>	<p>より広い範囲の事柄について、ある程度まとまった内容を、正確で適切な語句や文を使って記述・表現することができる。</p>
初級4	<p>自分が想定していない状況においても、学んだ語句や文を使って、相手の協力を得られれば、自分の意見を表明したり、情報を交換したりできる。</p>	<p>短い簡単な内容を理解することができる。</p>	<p>自分の身の周りや関心のある事柄について、ある程度まとまった内容を、趣旨が通じる程度に表現することができる。</p>
初級3	<p>自分が想定している範囲で、学んだ語句や文から選択して、相手の協力を得られればやりとりができる。</p>	<p>よく耳にしたり目にしたりする語句や文を理解することができる。</p>	<p>自分にとって身近な事柄を、短い語句や文を並べて表現することができる。</p>
初級2 / 1	<p>自分が想定している範囲で、基本的な言い回しを使って、相手の協力を得られれば簡単なやりとりができる。</p>	<p>よく耳にしたり目にしたりする語句や文のうち、ごく基本的なものを理解することができる。</p>	<p>自分にとって身近な事柄について、短い語句や文で表現することができる。</p>

表 2-1 やりとり

レベル	スキル	授業活動
上級	<ul style="list-style-type: none"> ① 複合的に絡み合ったり相互の主観がぶつかり合う状況（政治姿勢・差別のような諸社会問題、利害が相反する場面など）を回避することなく、積極的に対応することができる。 ② 立場の違いによる主張を交渉、説得、調整しながら、ファシリテーターとしての役割を果たすことができる。 ③ 他人の意見やコメントに柔軟に反応し（上手に反論・訂正、反応に応じて話し方を変える）、的確な質問・コメントを行うことで、全体の円滑な進行に役立てることができる。 	<p>対話の場を作るファシリテーション実践… ① ② ③ 正解の出にくいテーマを設定して対話を実践し、うまく進んだか否か、それはなぜかを考え、教室外の対話につなげる。</p> <p>反論を予測するディベート実践… ① ③ 政治的主題などについて肯定・否定に分かれ、立論および相手の意見を予測した反論を組み立てる。ジャッジのリアルタイムアノテーションとともに振り返りが行われる。</p>
中級3	<ul style="list-style-type: none"> ① 複雑で高度な話題（経済・政治・法律・化学など）について、互いの情報・意見を有効に活用し、やりとりすることができる。 ② 話しにくい事柄についても、相手の気分を害することなく、適切な表現を使って述べるができる（ぼかしや言いさし表現などの使用）。 ③ （遠回しな表現など）微妙なニュアンスに隠された言外の意味（社会的習慣）を理解し、正しく反応することができる。 	<p>日本の疑問解決ミニドラマ… ② 文化的摩擦の事例を読み、解決策を含むシナリオを作ってドラマを撮影する。目上役を配置し待遇表現を使う。</p> <p>学生自作の成果物を教材にしたディスカッション… ② ③ 学生自ら録音したロールプレイと作成したメールを材料に、まずピアレスポンスを行い、次に全体ディスカッションで気づきを共有する。</p>
中級2	<ul style="list-style-type: none"> ① 様々なジャンルの話題について、内容の度合いを調整しながらやりとりすることができる（相手の興味を誘う、質問などを交えながら反応）。 ② 場面の改まり度にあった述べ方ができる（簡単な前置き、定型表現の使用）。 ③ 相手の反応にあわせて述べ方を変えることができる（フィラー、相づちの使用、必要な情報の追加）。 	<p>日本語ミスコミュニケーション講座… ② 文化的背景の違いから生じうるコミュニケーションの失敗例とその解決策を考え、解説する。</p> <p>創造的アニメアフレコ実践… ① ③ 男女、年齢、関係性による言葉の違いを意識しアフレコをするとともに、オリジナルの続編を制作し、発表する。</p>
中級1	<ul style="list-style-type: none"> ① 身近な話題（自分の専攻、母国の文化・社会）について、知っていることや自分の考えを簡単に述べたり、相手に発言を求めたりすることができる。 ② 相手に自分の意図を正確に伝えることができる（話の目的と背景を伝える、接続詞の使用、話の内容の修正）。 ③ 相手の話に正しく反応することができる（聞き返す、同調）。 	<p>フローチャートに基づくインタビュー実践… ① ② クラスメイトに役立つ情報を伝えるため、日本人にインタビューする。確実に情報を得るべく展開を予測しフローチャートを作っておく。</p> <p>留学生による日本でのお悩み相談室… ① ③ 学生が日本で遭遇した悩みを題材に、司会、相談者、解決策を提示する回答者に分かれ番組を作成する。</p>

表 2-2 理解

レベル	スキル	授業活動
上級	<ul style="list-style-type: none"> ❶ 専門学術的な内容（講義・解説・論文・学術書など）を理解し、自分の言葉・文脈で説明することができる。 ❷ 適切な方法で必要な情報を検索・収集、取捨選択することができる。 ❸ 情報を適切に整理、精査することができる（情報やデータの集計、比較、批判的分析）。 	<p>物事を理解するための検索とは？ 複数の情報から関連性を見つける… ❶ ❷ ❸</p> <p>1つの社会的事象について情報検索し、付箋で共有して情報の関連図を作成する。これを繰り返し、複数の視点・意見を取り込んだ発表としてまとめる。</p> <p>みんなで読めば理解が進む クリティカル・リーディング… ❶ ❸</p> <p>抽象度の高いテキストを持ち寄り、ゴールとなる問い、そこにたどりつくまでの過程をグループで設定し、読みを進めていく。</p> <p>映像を通した日本語・日本社会の多角的理解… ❸</p> <p>日本社会に関するテーマの映像をもとに、多角的に批判的検討を加え、毎回自分の意見としてまとめる。</p>
中級3	<ul style="list-style-type: none"> ❶ より広いジャンルの長くて複雑な発話や会話、文章を理解することができる（ニュース、情報が不十分な会話、論説文・情報誌・新聞記事など）。 ❷ 複数のストラテジーを適切に選択したり組み合わせたりして理解することができる（スキミングやスキニングなど）。 ❸ 話し手や書き手の構成・意図に沿って、詳細に内容を理解することができる。 	<p>新聞記事で予測、スキミング、スキニング… ❶ ❷</p> <p>大見出しから内容を予測する。大見出し・小見出しをつなげ大まかな内容を理解する。見出しの情報がある個所を記事から探す。</p> <p>TED で聞く・見るマルチリソースのスピーチ… ❸</p> <p>日本版 TED を見て、言葉に加え音調、表情、身振り、スライドを情報源とし、スピーチから、問い・エピソード・一番伝えたい箇所を抽出する。</p>
中級2	<ul style="list-style-type: none"> ❶ 様々なジャンルのまとまった発話や会話、文章を理解することができる（3、4段落の独話、物語文など）。 ❷ 目的や内容に応じて様々な聞き方や読み方を使うことができる（図表の情報・人間関係・文脈などを捉えた予測・推測）。 ❸ 内容のポイントを確実に理解することができる（意図・論点・気持ちの理解）。 	<p>SNS で文型の使用法確認… ❶</p> <p>読解教材で使用されている文型・表現が、SNSで、どのような文脈・関係性において、何を伝えるために使用されているかを考える。</p> <p>内容を理解するために：ボトムアップからテキストの外へ… ❷ ❸</p> <p>指示詞、副詞、文末表現などの目印から文章の連続性や展開を理解した上で、小説など、文章の背景・他のテキストを踏まえた読み方が必要なものを読む。</p>
中級1	<ul style="list-style-type: none"> ❶ ある程度まとまった発話や会話、文章を理解することができる（2、3段落の独話、会話、説明文、エッセイなど）。 ❷ 使われている文法や語彙、表現にもとづいてボトムアップで理解することができる（文章構造、時間的表現、指示語、文末表現など）。 ❸ 初級の既習項目からなる短文や話しことばの特徴がある発話（音声変化・音調）を正確に理解することができる。 	<p>NHK web easy および NHK web を音読・読解… ❶</p> <p>A4 1枚におさまる分量の一般読者向けニュースから内容を推測し、外国人向けニュースで内容を確認する。</p> <p>図書館めぐりと目次を利用した本の推薦… ❷</p> <p>図書館で興味のある本を検索し、目次から内容を推測して、概要をグループで発表。聞き手は一番読みたい本を選ぶ。</p> <p>ディクテーションで日本語の精度を高める… ❷ ❸</p> <p>ディクテーションの作業を通じて、初級までに出てきた文法・語彙を自分で確認・修正し、正確な日本語習得・運用を目指す。</p>

表 2-3 表現

レベル	スキル	授業活動
上級	<ul style="list-style-type: none"> 1 場面にふさわしい表現・読み手あるいは聞き手にとってわかりやすい表現について考慮し、表現を使い分けることができる（漢語と和語のバランス）。 2 図や表を適切に引用し、質・量ともに適切な関連情報を用い、明確な構成（時系列・包含・対立など）を以て提示し、記述・表現できる。 3 扱うトピックについての関連情報を適宜加え、根拠に基づいて論理的かつ詳細に記述・表現できる（レジュメ・スライドの使用、明確な構造を持つ長い発表、説得力のある表現の使用）。 	<p>やさしい日本語で中級学生の質問に答える… 1 2 中級の学生からの質問に答えるため、和語を中心とする「やさしい日本語」と図表を用いて資料を作成する。中級の学生に分かりにくい所を指摘してもらう。</p> <p>新聞に意見書を投稿してみよう… 3 社会問題について複数の文献を用いて調査した上で、読み手を想定し、意見文を「ですます体」で500字以内にまとめる。</p>
中級3	<ul style="list-style-type: none"> 1 複雑な話題についてより高度な表現（名詞化、連用中止法、適切な接続詞、ニュアンスを加えた表現など）を使って述べるができる。 2 論理的に意見を述べたり（ディスカッション）、段落を用いて論理的な文章を書くことができる（序論・本論・結論のあるレポート）。 3 説得力のある10分程度のプレゼンテーションができる（有効な媒体の使用）。 	<p>章立てされた論文形式のレポート作成… 2 レポート作成の過程を学ぶ。①マインドマップでブレインストーミング、②中心文を意識した文章構成、③相互にコメントし合い構成や内容を検討。</p> <p>複数の情報をまとめるブックトーク… 1 3 興味のあるテーマについて主張の異なる複数の本、記事、サイトを探し、各主張とその根拠をまとめて口頭で発表する。</p>
中級2	<ul style="list-style-type: none"> 1 様々な話題についてより適切な表現を使って述べるができる（類似表現の使い分け、データの使用）。 2 より適切に文章を組み立て、明確に意見を述べることができる（データ・根拠の提示）。 3 わかりやすくスピーチやプレゼンテーションをすることができる（時間・量に応じた調整、内容の要約）。 	<p>数値で示す社会事象の発表… 1 2 社会事象を示す数値データを集め、そのデータのみを提示して口頭で説明をする。</p> <p>複数段落からなる説明文を書き、ポスター発表… 2 3 受け手が知らないことを分かりやすく説明するため、複数段落からなる説明文を書き、背景などの根拠を加えてポスターにまとめる。</p>
中級1	<ul style="list-style-type: none"> 1 アカデミックな場面で必要な表現を使うことができる（書き言葉と話しことばの違いの理解、指示詞、理由・目的・結果・比較・定義の表現の使用）。 2 適切に文章を組み立て、記述・表現することができる（段落を用いた文章の展開）。 3 意見を述べたり、まとめた内容を2、3分程度で発表することができる。 	<p>単文から段落へ：文章を書き、「ですます体」でスピーチ… 1 2 3 単文で書いた考えを段落へまとめていく。文体の統一を意識し、「である体」で書いた文章を「ですます体」に変え、聞き手を意識してスピーチする。</p> <p>中級1から話せる「自分の専門」… 1 3 専門分野について発表を行うことで、日本語で伝えられるという自信をつける。和語の使用、スライドの工夫で聞き手に伝える。</p>

